

令和元年度事業報告

【事業概要】

今年度末の実会員数は、1,300人の大台を越え、昨年度より35名の純増となりました。

会員各位の活躍により、事業実績は昨年度末に比べて請負・委任は就業延べ人員が若干減ったものの、受託金額は増加しており、派遣に関しては延べ人員受託金額ともに増加しました。

介護事業では新総合事業サービスAを中心に実績を上げており、子育て分野では児童クラブの補助員が大活躍を見せました。

活動2年目に入った厚生労働省の「きらりシルバー応援事業」は、今までにない斬新なアイデアが評価され、全国1,300余りあるセンターの中から5つに選ばれていることもあり、全国から問い合わせが数多く寄せられました。

6本の大きな柱で構成しているこの事業は、最終的には会員数、請負・委任・派遣の新規受託数を飛躍的に拡大させ、全国センターの手本となるような事業展開が期待されています。

令和元年度は全国から15カ所の視察や講演依頼がありました。11月には全シ協を通じ台湾からオファーがあり、センター始まって以来初めて海外での講演を行いました。

センターに新入会した会員ひとりひとりに職員が手分けをして面接を行い、人となりや詳しい希望職種などを把握して就業機会の確保、退会抑制に貢献しました。

2年間にわたり準備してきた庭木手入れ、除草に関する「完全請負制」は本稼働しており、その仕組みを活用したいと各地から問い合わせが来ています。

年齢が高くても活躍できる場として定着している「シルバーふれあいサロンやまゆり」「みんなの農場」は以前にも増して参加者が多く、地産地消、遊休地の有効活用、シニアの居場所づくりと生きがいの創出、高齢会員の退会抑制など様々な効果をもたらしています。

「農福連携」についても、一歩踏み込んだ議論が始まっており、6次化に向けた取り組みが芽を出し始めています。

柏崎市・シルバー人材センター・越後交通（株）の三者で、数年来交渉を重ねてきた、路線バスを活用した官民連携の「買い物支援バス」の運行も2年目を迎え、市民に密着した地域貢献度の高いサービスとして、路線拡大の動きも出ています。

市から指定管理を受けているワークプラザ柏崎は開かれた公共施設として多くの市民や企業団体からご利用いただき、取り組み姿勢や実績が評価され、今年度から5年間の指定管理を再受託して引き続き運営しています。

年度末に来て新型コロナウイルスの感染拡大から影響が出ており、今後活動自粛や受注減が懸念されます。

1、登録会員（年度末） 1, 313人 （男720人 女593人）

2、事業実績

(1) 請負・委任 受注件数（新規）	8, 807件（4, 725）	昨年度比
(2) 請負・委任 就業延人員	82, 039人日	2. 9%減
(3) 請負・委任 配分金合計額	292, 793, 892円	0. 8%増
(4) 請負・委任 受託金額	375, 527, 256円	0. 2%増
内 訳		構成比
公 共	91, 309, 464円	24. 3%
民間企業	150, 536, 269円	40. 1%
一般家庭	82, 102, 422円	21. 9%
独自事業	10, 068, 714円	2. 7%
介護保険	41, 510, 387円	11. 1%
(5) 一般労働者派遣事業		
受注実件数	753件（うち新規124件）	昨年度比
契約金額	130, 342, 813円	2. 8%増
(6) 請負・委任 職群別構成比		
管理的職業	0. 0%	専門的技術的職業 0. 0%
事務的職業	0. 6%	販売の職業 2. 4%
サービスの職業	41. 6%	保安の職業 0. 0%
農林漁業の職業	11. 1%	生産工程の職業 2. 2%
輸送機械運転の職業	0. 0%	建設採掘の職業 0. 3%
運搬清掃包装等の職業	41. 8%	
(7) 請負・委任・派遣 年間就業率	81. 0%	昨年度 80. 9%
(請負・委任のみ 年間就業率)	66. 1%	昨年度 67. 8%

【部会報告】

広聴広報部会

令和元年6月19日の定時総会で承認された事業計画に基づき、今年度のテーマとして四項目を重点に掲げ、活動した結果を報告いたします。

1、広報誌『シルバーだより柏崎』の編集発行

積極的に現場に出向き、会員の声が収集できるよう工夫し、写真を多く取り入れ、見やすい編集に心がけました。

第118号 令和元年9月15日発行（8頁）

第119号 令和2年4月15日発行（12頁）

2、メディアの活用(情報の収集及び発信)

『きらりシルバー応援事業』を柏崎市シルバーの役員・事務局・会員が一丸となって取組み遂行する為『シルバーだより柏崎』等による広報活動を実施しました。

主なものとしてポイントカード(会員証)のQ&Aを掲載し利用促進をPR、フレンドショップの活用、FMピッカラによる放送、漫画パンフレットの作成等を行いました。

3、周知活動(イベントチラシの作成)

フレンドショップの活用・拡大、各種行事の御案内を実施しました。

4、入会案内資料等の管理

2年度から、就業はできないが会員として残りたい等の希望により特別会員制度(年会費500円)が創設されることを受け『シルバーだより柏崎』第119号でPRしました。

企画推進部会

1、会員研修会を企画、運営しました。

内容を部会内で話し合い、柏崎市健康推進課保健師に講師依頼をし、「まだ間に合う！認知症予防」～認知症にならないための3つのポイント～という内容で行われました。

2、日帰り研修旅行を企画、運営しました。

群馬県の桐生市シルバー人材センターで行われている手作り工芸品の製作について、製作会員より苦労話を交えてお話をお聞きする研修を中心に、カリカリ梅の製造工場見学、ららん藤岡(道の駅)に立ち寄り内容の研修旅行を企画しました。参加者は女性会員が多く、職員含め41名でした。

3、普及啓発月間の活動の一環として、クリーン作戦(清掃活動)を全地区・全会員に呼びかけて実施しました。昨年より若干多い223名の参加でした。

4、普及啓発月間に柏崎市内で行われる3つのイベント(1.えんま祭り、2.シニアじまん展、3.かしわざき秋の収穫祭)に参加し、リーフレットを配布したり、シルバー人材センターのブースでのアンケート勧誘を行い、PR活動を行いました。

5、会員忘年会を企画、運営しました。

会員に楽しんでもらえるよう、昨年に引き続きじゃんけん大会と、新たにお楽しみ抽選会を企画し、おおいに盛り上がりました。参加者は来賓を含め118名でした。

6、部会内で事業拡大・会員増加のための方策、新規独自事業の内容について検討しました。

7、きらりシルバー応援事業においてシルバーフレンドショップ協力店の新規開拓に尽力しました。

女性活躍部会

- 1、女性会員拡大の一環として、企画推進部会と合同で下記のことを実施しました。
 - ・シニア作品・じまん展（老人クラブと共催）でのシルバー人材センター展示コーナーの飾り付け。来場者へ、リーフレットとポケットティッシュを配布
 - ・各イベント会場でリーフレットとポケットティッシュを配布
- 2、就業の質の向上・拡大のため、「家にあるもので簡単にできる料理講習会」を開催しました。
- 3、女性会員同士の交流会については、新型コロナウイルス感染症の影響により中止としました。
- 4、ふれあいサロン「やまゆり」に協力するため、春から秋にかけて月2回手芸教室を開催し、手芸や季節の飾り物など販売できる商品の作製をしました。
- 5、新型コロナウイルス対策として布製マスクの製作を行い、希望する市民に販売しました。

安全衛生部会

令和元年度は「もう一度安全就業への意識の徹底を図り、事故ゼロを目指す」をテーマに、意識がマンネリ化しないよう、職群班ごとに班長の他に安全担当会員を選出し、安全意識の再確認と、危険予知活動の周知を中心に取り組んで来ました。

しかし、傷害事故0件、賠償事故3件、労災2件が発生しました。機械除草における石の飛散による車輛損傷事故、派遣事業における労災事故もありましたが、昨年度を下回ることは出来ました。しかし、石の飛散事故は、重大事故につながる恐れがあり、より一層の注意喚起が必要です。このことから、安全への意識が軽薄になって、事故を起こした班に対し、事故等取扱基準に基づき忠告書を発行しました。

また、刈払機を使用する公園管理班、機械除草班には、特別安全講習会を実施しました。

主な活動内容は次の通りです。

- 1、安全目標の掲示、周知
- 2、安全掲示板の設置
- 3、職群班ごとに安全担当会員を選出
- 4、作業前朝礼時、声かけシートによる安全唱和の実施
- 5、安全チェックシートを活用し作業前点検実施
- 6、安全パトロール（9月から11月）
- 7、無事故100日キャンペーンの実施（6月1日～9月10日）
- 8、安全就業通信及び季節ごとの注意喚起文書の配布
- 9、安全就業シール配布
- 10、救急箱の配布

- 1 1、「作業中」と表示した看板を屋外作業班に配布
- 1 2、ヒヤリハット事案を募集
- 1 3、連合会主催の安全講習会へ参加
- 1 4、職群班全体安全研修会の開催（コロナウイルスで中止）
- 1 5、公園管理班、機械除草班に対する特別安全講習会の実施
- 1 5、「安全就業必携ハンドブック」の常時携帯と活用の徹底
- 1 6、運転作業を行う会員に対する運転診断及び交通安全講習会
- 1 7、刈払機取扱作業者に関する安全衛生教育の未受講者に取扱安全講習会を実施
- 1 8、家族への就業先明確化の徹底
- 1 9、事故等取扱基準（ペナルティ制度）の適用

このように多くの安全活動を実施し、安全への意識高揚に努めました。